

小・中学校の連携

新学習指導要領では、幼、小、中、高における教育の一貫性が強調され、総則において「地域や学校の実態等に応じて、学校相互の連携や交流を図ることにも努めること」と示された。

管内でも、これまで様々な形での学校間の連携や交流が自主的に実践され効果をあげてきた。今年度は、学区を同じくするごく近隣の小・中学校の連携を一層深め、学校経営や学習指導などに幅広く発展させるようより積極的な推進をお願いしているところである。

小・中連携のねらい

学区を同じくする小・中学校が相互に連携を深め、義務教育九年の見通しをもって教育活動を進めることにより、それぞれの学校教育の改善充実に資する。

①学校経営にかかる基本的な内容について、学校間の一貫性・系統性を図る。

②学習指導における小・中それぞれの立場を理解し合い、学習指導の改善充実を図る。

③同じ地域に生活する児童生徒の健育成という観点に立ち、生徒指導の充実を図る。

現在、各学校とも校長・教頭の連絡会、学習指導のための合同の研究会や研修会等、定期的・組織的に連携推進に取り組んでいる。

わたしの学校 ぼくらの活動

コスモス街道に夢はせて

—いわき市立御廟小学校—

御廟（みまや）小学校では、特別活動の一環として、市民手づくりまちづくりのコスモス街道植栽事業に協力し、自然の中での生き重き学習を体験した。

人の心を和ませるコスモスの咲きそよいだ河畔の秋の風景を思いうかべながら、百二十名の六年生が丹精こめて苗の移植作業を行った。



みんなでコスモス街道づくり

ふるさとに学ぶ 「自然観察教室」

—いわき市立永井小学校—

永井小学校では、ふるさとに学び、ふるさとにはたらきかける児童の育成をめざして、七年前より「ふるさと教育」を実践している。



「ほら小川にはいっぱい生物がいるよ！」

地域の自然環境を生かして

—いわき市立豊間中学校—

豊間中学校は、塩屋崎燈台のふもとに位置し、すばらしい自然環境の中に位置する。自然とのふれ合いを大切に「をスローガンに、各教科に「自然」に関する指導内容ができるだけ多く取り入れ、体験学習を通して、豊かな心をもちたましく生きる生徒の育成を図っている。

特に、野外観察クラブは、他校では体験することのできない海浜生物の觀察を通して、漁業と関連付けて貴重な資料を作成しつつあり、今後の研究成果が期待されている。



定置網漁業についての学習